

令和8年度第1回柳井医療圏地域医療構想調整会議 議事概要

【日 時】 令和8年8月3日（月） 19：30～20：35

【場 所】 山口県柳井総合庁舎 2階大会議室

【出席者】 出席者名簿のとおり

【議事内容】

- 地域医療構想の進捗状況の検証を行い、医療機関対応方針の取組の実施状況等について確認した。
- 病床数適正化緊急支援事業について、周防大島町立大島病院（※）、周東総合病院（※）光輝病院（※）、弘和クリニックの病床削減に係る説明を行った。
今後、病床を削減する※を付した医療機関について、新興感染症に係る協定による病床の確保等、地域の医療提供体制に問題がないことを確認した上、地域医療構想の達成に向けた対応方針の変更について合意した。
- 新たな地域医療構想策定ガイドラインの概要並びに令和8年度の優先的検討事項、3カ年度分の策定ロードマップ、検討体制及び構想区域・急性期拠点機能の決定手法について説明を行った。

- 1 令和8年度地域医療構想調整会議の進め方について
- 2 令和7年度病床機能報告結果について
- 3 地域医療構想の進捗状況の検証について

県医療政策課から、今年度の地域医療構想調整会議の予定、令和7年度病床機能報告結果について説明を行った上で、地域医療構想の進捗状況を検証するとともに、医療機関対応方針の取組の実施状況等について確認を行った。

（主な意見・質問等）

特に意見、質問等なし。

4 病床数適正化緊急支援事業について

県医療政策課及び各医療機関等から、病床数適正化緊急支援事業に係る病床削減について説明を行った。

周防大島町立大島病院、周東総合病院、光輝病院については、これに加え、対応方針（2025 プラン）の変更についても説明を行った。

周防大島町立大島病院の病床削減については、患者数減少に伴い、看護師等の

人的資源を地域包括ケア病棟に集約し、5 階に介護医療院を移転することで、医療と介護の機能分担を明確化し、持続可能な運営体制を構築するために慢性期病床 57 床を削減するものであり、地域に必要な入院医療及び介護サービスの提供が継続できるため、入院医療の継続に支障がないことが説明された。

周東総合病院の病床削減については、人材不足に伴う人員再配置による効率化のために急性期病床 28 床、回復期病床 24 床を削減するものであり、後方支援病院との連携や在宅医療への移行を推進することで、入院医療の継続に支障がないことが説明された。

光輝病院の病床削減については、資源集約化と効率化を図るために慢性期病床 32 床を削減するものであり、削減後も人的・物的資源の集約化を図ることで慢性期病床および介護医療院で受入れを継続していくため、入院医療の継続に支障がないことが説明された。

協議の結果、これらの医療機関の病床削減について新興感染症に係る協定による病床の確保等、地域の医療提供体制に問題がないことを確認し、対応方針の変更について合意した。

(主な意見・質問等)

- 今の段階では、まだ高齢患者が多いのに入院できる場所がなくなってきているようにも思え、今後どのように対応していくか気になるところ。(意見)
- 診療所から病院に患者さんを急性期病床で取ってもらうことが多いが、これだけ病床数が減って、今後も大丈夫だろうかという心配はある。(意見)

5 令和 7 年度かかりつけ医機能報告の結果について

県医療政策課から、令和 7 年度かかりつけ医機能報告の結果及び活用のあり方について説明を行った。

(主な意見・質問等)

特に意見・質問等なし。

6 新たな地域医療構想の策定について

県医療政策課から、新たな地域医療構想策定ガイドラインの概要並びに令和 8 年度の優先的検討事項、3 カ年度分の策定ロードマップ、検討体制及び構想区域・急性期拠点機能の決定手法について説明を行った。

(主な意見・質問等)

○ 構想区域の現状維持や広域化については、県側である程度このような形で進めたいというような青写真を描かれるのか、それとも各医療圏の意見や希望をボトムアップで聞いた上で、対応を考えていくのか。

⇒ 現時点で具体的な案をお示しできる状況にないが、今後、国からのツール等を使ったデータ分析を行った上で、医療アクセスなどの問題も含めたメリットデメリットと併せて、複数の対応案をお示しすることになるかと思う。

○ 柳井区域を周南もしくは岩国と統合する場合、この地域の急性期拠点を担当する医療機関は、岩国医療センターまたは徳山中央病院となると思料するが、こうした医療機関へのアクセスの問題に係る検討は、地元各市町と足並みを揃えて行ってもらえるか。どうするかという問題は各市町が考えなくてはならないと思われるが、各市町の医療以外の担当の方々とも、足並みを揃えて行ってもらえるか。

⇒ 医療へのアクセスについては重要な考慮要素であることから、市町に対しても問題点等について適切に共有し、共に検討を進めてまいりたい。

○ 現行の柳井構想区域を維持する場合、周東総合病院に救急搬送等が一極集中している現状を鑑みると、急性期拠点機能を担う医療機関をどこにするかについて改めて検討する必要性を感じない。

むしろ、こうした前提の下で、新たな地域医療構想に基づく地域医療提供体制の構築に向け、1市4町が一致団結して足並みを揃え、周東総合病院が自治体病院と同じような立ち位置として医療提供を継続できるよう、しっかりサポートしていただきたい。(意見)